



—東地中海地域ニュース—

トルコ：トルコ・アルメニア関係の改善

(4月9日付現地各紙)

4月9日付現地各紙は、トルコ・アルメニア関係の改善に向けた動きについて報じている。概要は以下の通り。

1. 4月6日、ギョル・トルコ大統領は、オバマ米大統領とアンカラで会談した後、アリエフ・アゼルバイジャン大統領と電話会談を行い、この会談内容を説明した。7日、オバマ大統領はアリエフ大統領と電話会談を行い、ナゴルノ・カラバフ問題解決に向けて支援を行っていくと表明した。アリエフ大統領は、上記会談内容を説明するため、ギョル大統領と電話会談を行った。

トルコ政府関係者は、アゼルバイジャンとの緊張関係を問題視しておらず、ギョル大統領及びアリエフ大統領の電話会談が示すとおり、両国は接触を強めていると述べている。

2. 一方、アゼルバイジャンは、ナゴルノ・カラバフ問題において、トルコによるアルメニア国境封鎖という重要な影響力を失うことを懸念し、トルコ・アルメニア関係の改善に向けた動きを強く非難している。

アリエフ大統領は、6～7日にイスタンブールで行われた「文明間の同盟」フォーラムを欠席し、ロー・レベルの代表団を派遣した。さらに7日、アゼルバイジャン政府及び野党は「トルコ・アルメニア間の国境再開、外交関係の開始に関する協議は、トルコ・アゼルバイジャン関係及びトルコ系民族の団結を大きく損なう」として、トルコがこれらの協議を進めないよう求める共同声明を発表した。

3. トルコ政府関係者は、トルコ・アルメニア間の国境再開は直ちに行われる訳ではなく、サルキシャン・アルメニア大統領がFIFAワールドカップ予選のトルコ・アルメニア戦を観戦するためにトルコを訪問する10月頃に国境が開放されるのではないかと述べた。この間にトルコはアゼルバイジャンの懸念を解消するための外交努力を行う事となる。なお、ギョル大統領は近く（アルメニア人虐殺の記念日である4月24日以降になるとみられる）アゼルバイジャンを訪問する予定。

4. 外交筋は、コーカサス地域ではアルメニアとの関係正常化、ナゴルノ・カラバフ問題解決、コーカサス安定協力プラットフォーム(GSCP)の3つの取組が進行中であり、トルコは、これら3つの取組の成果が相互にプラスの影響を与える事を期待していると述べた。

5. エルドアン首相発言概要（4月8日）

「アゼルバイジャン・アルメニア間の問題が解決しない限り、トルコ・アルメニア間の問題解決は困難である。我々は、国連安全保障理事会がアルメニアがナゴルノ・カラバフ地域を占領している事を認め、この地域からの撤退を求める決議を採択することを期待する。ミンスク・グループは、17年以上も本件解決に向けて取り組んできている。」

【補足情報】

<2006年>

- 2006-05-31 トルコ外務省報道官は、アルメニアを外交関係樹立のための交渉をしていることを明らかにした。
- 2006-05-31 CNNTurkによると、アルメニア虐殺問題の政治的解決の為、トルコとアルメニアの間で秘密会合が開催されていた。国交正常化に関する話し合いは失敗に終わった。
- 2006-09-30 コチャリアン・アルメニア大統領は、トルコの提案したアルメニア人虐殺問題を巡る合同歴史委員会設立案に関し、自分はエルドアン首相に返答し提案を支持したが、同首相が返答しない、両国首脳はプレスではなく外交ルートを通じて協議すべきだと述べた。

<2007年>

- 2007-02-19 アルメニアのコチャリアン大統領は、アルメニアは無条件にトルコとの関係を正常化し、「アルメニア虐殺」問題を協議するための合同政府委員会を設置する用意があると述べると共に、トルコが提案する歴史家による合同調査委員会の設置に反対し、関係正常化の責任は歴史家ではなく政治家にあると述べた。
- 2007-06-25 イスタンブルで黒海経済協力機構（BSEC）の15周年特別会合が開催され、12カ国の加盟国からセゼル大統領（議長）、プーチン露国大統領、サーカシビリ・グルジア大統領、アリエフ・アゼルバイジャン大統領等、国家元首を含む首脳級代表が参加した。EU、国連、世界銀行関係者もオブザーバー参加。加盟国中トルコと国交のないアルメニアからはオスカニアン外相が出席。トルコは今年5月1日からBSEC議長国を務めている。
- 2007-06-25 アルメニアのオスカニアン外相は、BSEC会合出席のためトルコを訪問し、会合前の外相特別会合で、トルコ・アルメニア間に国交がないためアルメニア大統領が出席できなかったこと、トルコ・アルメニア関係に見られるようにBSEC内部に溝があることを指摘した。又、オスカニアン外相は、ギュル外相と会談後、次の通り発言した。①トルコには「アルメニア虐殺」に言及した者が罰される法律があり、エルドアン首相の提案した歴史委員会設立の前向きな検討は困難である、②トルコとの国交正常化でアルメニアは条件を求めているのにトルコが条件を設定するのは不公平で受け入れられない、③「アルメニア虐殺」は歴史的事実であり、トルコのみが受け入れていない、④「アルメニア虐殺」問題について、アルメニアは従来同様、これを国交正常化の条件にはしない。
- 2007-06-25 アゼルバイジャンのアリエフ大統領は、トルコを訪問し、イスタンブルで開催されたBSEC会合へ出席、同会合で演説し、BSEC加盟国である一カ国がアゼルバイジャン領土の20%を占領し、国内避難民100万人を生み出している、この不公正の是正の為、BSEC加盟国に迅速なる支援を要請すると述べた。これに対しアルメニアのオスカニアン外相は、アルメニアがアゼルバイジャンに望むのは我々の生存を認めることだけであると述べた。

2007-06-25 トルコを訪問中のアルメニアのオスカニアン外相は、イスタンブールでの記者会見で、トルコとの歴史的論争を前向きに進展させる為の最初の歩みとして、閉鎖されているトルコとの国境を再開する必要があると述べた。同国境は、トルコがアルメニアによるアゼルバイジャン領土の占領に抗議して 1993 年に閉鎖したものの。

<2008 年>

2008-02-21 ギュル大統領は、サルキシャン首相のアルメニア大統領選挙における勝利が、両国の関係正常化につながることを望むと述べた。

2008-09-03 トルコのギュル大統領は、近くアルメニアを訪問すると報道された。両国間に外交関係はまだない。

2008-09-06 アルメニアでは、ギュル大統領の訪問に抗議して数千人が、抗議のため街頭に立った。ギュル大統領は、サッカーの試合を観戦し、サルキシャン大統領と会談。トルコ大統領のアルメニア訪問は初めて。サッカー場に登場したギュル大統領は、観衆からのブーイングを受けた。

2008-09-10 トルコのババジャン外相は、アルメニアとアゼルバイジャンの両外相と近く、ニューヨークの国連本部で三者会談を開催すると明らかにした。

2008-11-24 アルメニアのナルバンジャン外相は、トルコを訪問。

<2009 年>

2009-01-29 スイスのダボス会議に出席したババジャン外相は、アルメニアのサルキシャン大統領と会談。

2009-03-17 トルコのババジャン外相は、同国とアルメニアの関係が改善に向かっていると同国のザマン紙に対して述べた。

2009-03-18 同日付けロシア「独立新聞」は、近く、1993 年にトルコが一方向的に閉鎖した同国とアルメニアとの国境が再開される可能性があり、アンカラとエレバンとの交渉は最終段階に入っていると報じた。トルコで地方自治体選挙が行われる 3 月 29 日以降にも国境が開かれる可能性があると言われた。なお、同紙は、ナゴルノ・カラバフ問題が解決されていない時点でのアルメニア・トルコ国境の再開は、トルコ・アゼルバイジャン関係に対する打撃となるとも報じた。

2009-04-0 アゼルバイジャンのアリエフ大統領は、ブライザ米国務次官補代理（OSCE ミンスクグループ米国共同議長）と会談し、ナゴルノ・カラバフ紛争の解決について協議した。ブライザ次官補代理は、記者会見においてトルコ・アルメニア間の関係改善に関連して、両国国境の再開はナゴルノ・カラバフ問題の解決に向けた作業に肯定的な影響を与えるであろうと述べた。ただし、国境の再開時期については明らかでないとした。

2009-04-03 アゼルバイジャン国民議会において、トルコ・アルメニア間国境再開について協議がなされた。アサドフ議長は、近くトルコ議会の代表団がアゼルバイジャンを訪問予定であると述べた。同議長は、トルコ・アルメニア間国境再開がアゼルバイジャンにとって決して好ましいものではなく、このアゼルバイジャンの立場をこれまでトルコにも伝えてきたが、この取り組みを強化する必要があると述べた。